

この資料は、受講生が地域デザインカレッジのプログラムの中で考えた企画を発表用にまとめたものです。自治会や町内会が組織として作成したものではありませんのでご了承ください。

# 第1分団の地域特性に合わせた 消防団活動の見直し (地域デザインカレッジ2022)



2022.12.24

第1分団 防火協会

(静岡市消防団 静岡地区第1方面隊第1分団) 鈴木宏明

# 取り組んだこと①

9/22 静岡市消防局 警防課 消防団係長に「静岡市の消防の状況」についてヒアリング実施

## 【主な聞き取り内容】

### Q定員数の算定基準は？

保有車両台数及び可搬ポンプ数を稼働させる隊員数を基に、全員参集できないことを考慮して2.5倍とした。

例) ポンプ車・・191台×5人=955人 可搬ポンプ・・58台×4人=232人  
1,187人×2.5÷2,950人(定員)

### Q消防団の役割は？

災害時における役割は、火災はもちろんのこと、台風や集中豪雨における風水害、避難誘導、地震による津波、家屋倒壊、行方不明者の捜索など、その範囲は様々に及びます。

平時における役割は、有事に備えた各種訓練及び機械整備はもちろん、地域住民等に対する指導、協力、支援及び啓発に関する業務も消防団の業務として幅広く実施しています。(自主防に対する指導・応急手当の普及指導・イベント等の警戒、協力・火災予防運動広報など)



# 取り組んだこと②-2

「消防団の活動に対して『重要度』『満足度』のアンケート」結果

Q 1 消防団の活動に対する地域にとっての「重要度」と現状において十分できているかどうかの「満足度」

A 1 「重要度」

- 1位 火災・風水害・地震等の災害出勤
- 2位 自主防災で行う訓練の指導
- 3位 応急手当の普及指導 etc

「満足度」

- 1位 火災・風水害・地震等の災害出勤
- 2位 自主防災で行う訓練の指導
- 3位 年末夜警等の火災予防運動 etc

【活動が足りないと感じる度合い】（＝「重要度」－「満足度」）

- 1位 消防団の活動を周知するための広報活動
- 2位 火災・風水害・地震等の災害出勤
- 3位 応急手当の普及指導 etc

# 取り組んだこと③

## 各団員の年間活動の見える化（訓練の日数、出動回数等）

### 第1分団活動 4～11月

主な活動内容		回数	月平均	拘束時間/回	備考
訓練	防災訓練（夜）	14回	1～2回	1～2時間	
	査閲訓練（夜）	13回	5～8回	2時間程度	6、7月のみ
機械器具点検等（夜）		11回	1～2回	1～2時間	長いと3時間
会議・研修等		11回	1～2回	1時間半程度	講習は3時間
庶務事務等					担当のみ
災害対応（火事・台風）		8回			
地区の活動	花火大会等の警戒	1回		1時間半程度	
	団員募集活動	1回		4時間	
	火災予防広報（夜）	3回		1時間程度	11月

## 取り組んだこと④-1

静岡市消防団第1方面隊第1分団の分団員あてにアンケートを実施しました。

実施期間：11月20日～12月5日

対象人数：13人（第1分団分団員）

回答数：12

回答率：92.3%



# 取り組んだこと④-2

## 第1分団分団員アンケート結果

Q1 団員になった動機は？（複数回答）

A1 **1位 団員から誘われた**

Q2 団員になって良かったことは？（複数回答）

A2 **1位 仲間との連帯感**

Q3 団員活動にあたり苦勞したことは？（複数回答）

A3 **1位 職場の理解が得にくい**

**2位 時間が拘束されること**

Q4 団員増加にあたり取り組むべきことは？（複数回答）

A4 **1位 機能に特化した体制をつくる**

**2位 職場の理解を得る**

# これからの取組

- ①機能別消防団員（任命資格と従事内容の拡大）
- ②仮入団制（中・高校生、一般へ呼びかけ）  
等の導入を検討
- ③自主防災との連携
- ④消防団活動の理解度を深める（広報活動等）